
ちらし寿司はお疲れ気味

大山マルティ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ちらし寿司はお疲れ気味

【Nコード】

N4747D

【作者名】

大山マルティ

【あらすじ】

天下人は天が決める！！あらすじとかめんどくさいんですけど…

ボクは家族の中で一番小さい。
ネズミじゃないよ。

これはある夜の話。ボクは眠り病だった。小さい小さいカゴの中で、ずっと前からそれが当たり前だった。

聴こえたのは鳴き声。

たぶん虫。だって小さいから…。誰もいない家の中で聴こえた。

鳴き声はやがて小さな声となる。

「倒れるよ。崩れるよ。」

「きやはは。」

誰かがボクの背中を触る。

「チコみたいだな。」

ボクは振り返る事ができない。昔からそうだ。大事な所で失敗ばかりだった。

そうか、眠っているからだ！

こんなに静かな部屋で、あんな声が聴こえる筈がない！そうとわかれば何も心配することはない。こんなに小さなボクでも大丈夫だ！

さあ胸を張って堂々と眠るぞ（???）

ん…？

…

違和感。

ボクが少し大きくなったような気がした。

多分、声が聴こえなくなったから。それだけの違和感。

大きく息を吸う。

ナミダが出た。

やっぱりボクは小さい。

もう何も聴こえない。

助けて！助けて！助けて！助けて！助けて！

よかった。逃げる理由が出来た！

逃げなきゃいけない。ボクは明日から逃げる。どこまでも、どこまでも逃げる。

早く走る。遠くまで逃げる。ボクの憧れ。

大きく息を吸う。
ナミダが出た。

これはある夜の話。ボクは眠り病だった。小さい小さいカゴの中で、ずっと前からそれが当たり前だった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4747d/>

ちらし寿司はお疲れ気味

2010年11月23日03時30分発行